

# 総合日本語コース報告 (2019年10月～2020年8月)

濱田 美和

## 1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低い。そのため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級および中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2019年10月に16期目の学生を迎えた。

以下、2019年度秋期(2019年10月～2020年2月)および春期(2020年4月～8月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

## 2 受講学生

### 2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2019年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は7人で、秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はブラジル3人、インドネシア、チェコ、トルコ、ベトナム各1人で、所属は人間発達科学部4人、人文学部3人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2019年度は秋期に上級9科目と中級6科目、春期に上級8科目と中級7科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目および総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2019年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は15科目(秋期9, 春期6)が1人、12科目(秋期7, 春期5)が1人、11科目(秋期5, 春期6)が1人、9科目(秋期4, 春期5)が1人、8科目(秋期3, 春期5)が1人、5科目(秋期1, 春期4)が1人、3科目(秋期2, 春期1)が1人だった。

### 2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は23人で、出身国・地域別の内訳は中国が16人、韓国が5人、ベトナムとロシアが各1人、所属別の内訳は人文学部が10人、人文科学研究科が4人、工学部が3人、人間発達科学部と人間発達科学研究科と経済学研究科が各2人だった。春期は14人で、出身国・地域別の内訳は中国が11人、ベトナムが2人、ロシアが1人、所属別の内訳は人文学部が7人、人文科学研究科が3人、人間発達科学研究科と経済学研究科が各2人だった。

履修科目数については、秋期は7科目が2人、6科目が2人、5科目が4人、4科目が1人、3科目が4人、2科目が4人、1科目が6人、春期は6科目が7人、5科目が1人、4科目が1人、2科目が3人、1科目が2人だった。

### 3 担当者

秋期は専任教員3人（副島健治、田中信之、濱田美和）、および、非常勤講師6人（高島智美、田上栄子、中野香保里、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規）、春期は専任教員2人（田中信之、濱田美和）、および、非常勤講師5人（高島智美、中河和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子）が授業を担当した。いずれの期も専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

### 4 スケジュール

秋期は、2019年10月7日（月）～2020年2月7日（金）を授業期間とし、12月25日（水）～1月6日（月）は冬季休業、1月17日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、10月16日（水）と11月7日（金）は月曜日、10月25日（金）は火曜日、12月24日（火）は金曜日の授業を行い、2月4日（火）は休講とした。春期は2020年4月23日（木）～8月14日（金）を授業期間とし、曜日調整のため、5月1日（金）と5月7日（木）は水曜日の授業、7月22日（水）は金曜日の授業、8月7日（金）は月曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は、秋期は2019年10月3日（木）、春期は2020年4月7日（火）である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は国際機構ホームページ上にも掲載、Web版は日本語と英語での閲覧が可能）を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は授業開始後2週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

### 5 授業内容

総合日本語コースは、上級および中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。科目名にCのついた授業は上級レベル、Bのついた授業は中級レベルである。多くの科目が秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが、上級レベルの授業については、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要（2019年10月～2020年8月）

授業科目名 (開講曜限)[担当]	授業概要
秋期：読解 C2a (木3)[田中] 春期：読解 C1 (水2)[田中]	大学での研究活動に必要な専門書、論文の読解能力の養成を目指して、様々な話題に関する文章を読み、仲間との対話を通して内容の理解を深める。さらに、新聞・雑誌記事や教養書を要約し、その内容をグループで討論することによって、批判的思考力を身につける。秋期は『協働で学ぶクリティカル・リーディング』（ひつじ書房）を主教材として使用する。
秋期：読解 C2b (火4)[藤田]	文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用する。
秋期：文法 C2 (木2)[濱田] 春期：文法 C1a (木1)[濱田] 文法 C1b (木2)[濱田]	大学での学習、研究に必要な上級の文法・表現を整理し、多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング 文法N1』（アルク）、春期は文法C1aで『TRY！日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』（アスク出版）、文法C1bで『TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語 改訂版』（アスク出版）を主教材として使用する。

秋期：作文 C2 (水 4)[要門]	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。
秋期：聴解 C2 (月 3)[田上] 春期：聴解 C1 (木 3)[要門]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 C2 (水 3)[要門] 春期：会話 C1 (水 3)[高島]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語での的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。
秋期：漢字 C2 (月 4)[濱田] 春期：漢字 C1 (月 2)[濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。秋期は『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社)、春期は『使う順と連想マップで学ぶ漢字 & 語彙—日本語能力試験 N 1』(国書刊行会)を主教材として使用する。
秋期：表現技術 C2 (火 2)[濱田] 春期：表現技術 C1 (月 3)[濱田]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 C2 (木 3)[田上] 春期：日本文化 C1 (水 4)[中河]	留学生として日本社会を分析する試み(情報の読み取り、整理など)をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現 B2a (火 1・2) [田上], b (金 1・2)[松岡] 春期：文法・表現 B1 (水 1・2) [中河]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』(凡人社)を主教材として使用する。
秋期：文法・読解 B2a (水 1・2), b (木 1・2)[副島] 春期：文法・読解 B1a (火 3・木 2) [要門], b (金 1・2)[松岡]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期：文法 B2 (火 1)[中野] 春期：文法 B1 (月 3)[横堀], (木 1)[要門]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期：作文 B2 (木 3)[濱田] 春期：作文 B1 (水 3)[田中]	自分の考えを根拠を挙げて筋道立てて書けるようになること、また、協働的な活動を通して自律的な書き手となることを目指して、作文の基礎を学んだあと、意見文、要約文、説明文を書く練習を行う。
秋期：聴解・会話 B2 (火 3)[中野] 春期：聴解・会話 B1b (金 3)[田中]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送る上で必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話を聞き取る練習をしながら、口語的な表現への理解を深め、それらを場面や人間関係に応じて使えるよう練習する。
春期：聴解・会話 B1a (月 3)[横堀]	状況や目的に合った適切な表現を使って会話ができるように会話表現を中心に学ぶ。初級レベルの文法を復習しながら、中級レベル文法を会話の中で使う練習をする。
秋期：漢字 B2 (月 3)[濱田] 春期：漢字 B1 (月 4)[濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社)を主教材として使用する

\*1限8：45～10：15、2限10：30～12：00、3限13：00～14：30、4限14：45～16：15

\*週90分(上級レベルの全科目、文法B2、聴解・会話B2・B1ab、作文B2・B1、漢字B2・B1)あるいは週180分(文法・表現B2ab・B1、文法・読解B2ab・B1ab、文法B1)の授業を15週行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級および中級クラスとまとめて実施した。

授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

## 6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。8月（留学期間が半年の学生については3月）に成績を記した履修証明書の発行を国際機構長名で行った。

## 7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2020年8月7日（金）～13日（木）、調査対象：2019年度日本語・日本文化研修留学生（6人）、協定校からの短期留学生（10人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分だった。(11人)</li> <li>・十分だった。日本語は小さいころに勉強して、国の学校の授業では漢字ばかりだったので、文法と表現技術は勉強したことがなかったのがよかった。</li> <li>・十分だった。日本に来る前にN1に合格した。コースを受けて文法とか表現を受けとよい勉強になった。先生はまじめだと思う。毎回よく準備してくれてありがとうございます。謙讓語、尊敬語は国では普通は使わなかった。いろいろな使い方が私たちはわからなかったのが、授業で勉強できてよかった。</li> <li>・ほとんどしたい授業はあった。</li> <li>・秋期は作文があったけど、春期は作文がなくなった。私にとって修了レポートを書くとき作文能力は欠かせないから春期にもあったらよかった。</li> </ul>
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうどよかった。(9人)</li> <li>・ちょうどよかった。挑戦もあるし、そんなに難しくもない。</li> <li>・ちょうどよかった。漢字と表現技術と作文、全部の授業、合っていたと思う。</li> <li>・私のレベルと比べれば同じぐらい。そんなに差が大きくないと思う。</li> <li>・ある科目は難しく、ある科目はちょうど良かった。</li> <li>・適当。漢字は難しかった。</li> <li>・やっぱり漢字は少し難しかった。ぼくの問題。たぶん勉強不足。あとは大丈夫だった。</li> <li>・科目によって違う。上級の漢字は今は大丈夫でしたが、半年前は難しかった。日本に来たばかりのころは上級クラスは本当に難しかったけど、中級クラスは易しすぎるかなと思った。文法の授業は、N2の文法C1aは私のレベルによく合っていると思っていたが、N1の文法C1bは無理ではなかったけど、難しかった。</li> </ul>
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは日本語能力を高めたくて、苦手な科目を選んで、あとは国では教科書で勉強していたから、教科書以外の日本語の実用的なものを知りたくて選んだ。</li> <li>・国で勉強していない科目、文法などを選んだ。作文もうまく書けなかったのが選んだ。</li> <li>・苦手な部分を勉強したいと思った。</li> <li>・まずは自分にとって必要な科目（私は漢字が苦手）、そして、ほかの授業と重ならないように。</li> <li>・自分の足りないところ。敬語とか苦手な部分。漢字も。まだまだ初めて見る漢字があることに気がついた。</li> <li>・漢字は苦手だから、作文は修了レポートを書くため選んだ。表現技術は敬語に力を入れたいと思った。文法は時間が合わなかった。授業数と空いている時間で選んだ。専門で授業がたくさんあったので。</li> <li>・日本に来たばかりのときはどんな先生かわからないので先生によって選ぶことは無理だったので、自分の短所を見て、漢字を上級と中級の2つ選んだ。会話の私の短所だが、選びたくなかった。この半年はもうちょっと担当の先生によって選んだり、同級生から読解の授業はかなり楽しいと聞いて読解を選んだ。作文は最初の半年は私の漢字能力はあまりよくないと思って、作文は次の半年に選んだ。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは日本語能力試験のため、試験勉強のためのような、自分の苦手な部分(文法)をもっとできるようになること。</li> <li>・日本の文化を学んだり日本語能力試験の勉強をしたりするため。</li> <li>・一番は日本語能力試験を優先してそれを考えて。あとは興味のある授業、たとえば読解の授業はすごく興味があったので。</li> <li>・日本語能力試験のため。そして、国の大学は1週間に受講科目数が決まっていて、それでその数を考えて受けた。1学期は16単位。総合日本語コースは1単位、教養教育と専門は2単位になる。</li> <li>・まずは私の学校は単位が必要だから、総合日本語コースの全科目、単位がもらえる。自分の日本語能力をアップしたいから。</li> <li>・実は今学期は総合日本語コースをいっぱい選んだ。その理由は、国の大学が決まった単位を取らなければならないと言ったから仕方なくて。もし決まった単位を取らなかったらうまく卒業できないかもしれない。</li> <li>・まずは先生が優しい。そして、国の大学に戻って単位になるように。私の大学はできれば科目を多く取ったほうがいい。国の大学から具体的な要求が多い。</li> <li>・帰国するとき総合日本語コースの成績証明書が必要だからコースを受講した。科目は実用性、実践的かで選んだ。</li> <li>・どんな内容かどんなふうに行われるかという授業のタイプで選んだ。</li> </ul>
<p>4. 自身の日本語力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸びたと思う。聞き取りとか読解のスキルとか文法。</li> <li>・伸びた。考えとか言いたいことを日本語で言語化しやすくなった。もっと速く、言い返せるようになった。語彙力も上がったと思う。漢字の授業では、ただ漢字だけでなく、語彙力も上がった。</li> <li>・伸びたと思う。どの力も少し伸びた。考え方について日本人や留学生の友達と話したら、日本語を話さなければならない。ときどき同じ国の友達と話するときもまず日本語が頭に浮かぶ。</li> <li>・聴解力はある程度伸びたと思う。試験についての聴解力ではなく、日常会話や授業を受けるときの聴解力は伸びた。論文やレポートを書く力も結構伸びた。</li> <li>・伸びたと思う。向上した。最初日本に来たとき指導教員の話のスピードが速くて、わかりにくかった。1年間勉強して日本語のレベルが上がって成功した。指導教員の話も全部わかるようになった。</li> <li>・すごく伸びたと思う。特に話すときに、前は全然話せなかった。前は緊張していたが、前より伝えたいことは伝えられるようになった。敬語も使えるようになった。書くこともよくなったと思う。</li> <li>・対話の能力。国では日本人と話す機会があまりないが、富山大学で読解や会話の授業ではほかの国の留学生と日本語で話し合うので。</li> <li>・たぶん伸びたと思う。特に作文。いろいろなレポートを書いたので、上手になった。</li> <li>・伸びたと思う。なんだか主に書く能力が、指導教員のいろんな書くことが多いので、鍛えられた。</li> <li>・少しアップしたと思う。読解能力とレポートの作成。作文。</li> <li>・伸びた。国では日常的な言葉だけ知っていたので、日本で専門の言葉とか難しい文章や文法や漢字を覚えた。</li> <li>・間違いなく伸びたと思う。漢字力。日本に来たときは書類を見て内容は全然つかむことができなくて困っていたが、今は漢字を見たら読めなくてもだいたい意味がわかる。そして、語彙が本当によくなかった。前は漢字力が低いので語彙力も低かったと思う。</li> <li>・漢字の能力が少し伸びた。</li> <li>・伸びた。新型コロナのせいで会話のスキルは希望よりは伸びなかったが、漢字の読みや読解は上達したと思う。</li> <li>・少し伸びたと思う。敬語の使い方。先学期はたくさん伸びたかなと思う。今学期はコロナのせいで家に引きこもりで、ほかの人とコミュニケーションがとれなくて。</li> <li>・思ったよりそんなに成長していない。日本に来る前に日本人と話す機会は多いと思ったが、来てから周りは全部同じ国の留学生だった。日本人の友達が1人もいない。ゼミの日本人学生は、日本人学生同士もお互いあまり仲良くなって距離感があって、あまり親しくなれなくて、プライベートではあまり連絡しなかった。</li> </ul>
<p>5. 富山での留学生活について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸せ。総合日本語コース以外に指導教員の授業をたくさん勉強ができてよかった。先生が私のためにゼミで忘年会、飲み会をしてくれて、日本の文化を体験できてとてもよかった。うれしかった。コンビニのアルバイトも短い時間だけど勉強になった。店長や先輩との関係がよかったと思う。アルバイトでお客さんと話すのを練習できた。旅行は正月に出身大学が同じ留学生と京都、大阪に旅行してかけがいのない思い出になった。</li> <li>・留学生活は富山大学で過ごした1年間は自分の日本語レベルがアップした。それについてはうれしい。富山のいろいろな食べ物もいろいろ食べた。ブラックラーメン。おすし。そして、日本海。友達と写真を撮りに行ったり、遊びに行ったりして楽しかった。日本人学生のチューターには何か学習の問題があったら連絡して、助かった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった。富山の環境は、私にとってはすごく感動。国にいるときは虫とか動物は子どものときは見たけど、大きくなってからあまり見たことがない。富山では虫や虹もたくさん見られた。富山の環境は空気もきれいだし、緑の植物も、花もすごく種類が多くて、見たことがない花がたくさんある。学部の研修旅行は楽しかった。同じ国の留学生で、来日前からの友達がいたので、よかった。コロナのせいで日本人学生との交流が少なかったのが残念。</li> <li>・私は田舎が好きなので、自然が好きなので、よかった。日本人学生との交流も、スマイルフェスティバルに参加していろんな人と出会い、楽しかった。</li> <li>・よかった。最後はいろいろできないことがたくさんあるが、楽しかった。日本人学生との交流は、チューターとよく話した。</li> <li>・全体的によかった。景色がいい。会館の近くは窓からすぐ山が見える。珍しいと思う。ふるさとのほうが富山より都会で、こんな景色は見られない。日本人学生との交流は、チューターと院生の先輩から修了レポートを書くとき助けてもらった。4月からのオンライン授業で最初はネットへの接続が大変だったが、6月から新しい部屋に移ってから問題なくなった。</li> <li>・コロナで富山であったことはよかった。富山の感染者数を見て、国の家族も安心していた。富山の生活はゆっくりした感じ。大学はいろんな面、専門のゼミなど厳しかったので、バランス的にちょうどよかった。ほかの大学に行った学生はもっとゆっくりしていた。</li> <li>・前半はいろんなところへも行ったし、その後はコロナの影響でスケジュールが乱れた。残念なところはたくさんあるけど、全体的に言えば悪くない。</li> <li>・いいと思う。確かにいい。まずは、国際交流会館の状況がとてもよかった。日常生活と勉強のために必要なものは全部ある。大学からもかなり近い。日本語の授業も満足している。日本人の学生と話すチャンスは希望していたより少なかった。サークルに入りたかったけど、コロナのせいで部活が停止になったから…。</li> <li>・前の学期は旅行へ行ったり、おいしいものを食べたり楽しかったけど、今学期はずっと家にいてつまらなかった。雨が降らない日は友達と散歩に行った。日本人の学生とも今学期は話すチャンスがなかった。前の学期は学部の授業で日本人学生とグループで活動していっぱい話したり、今学期と比べて話すチャンスがあった。</li> <li>・先学期はすごく充実していた。今学期はちょっと…。先学期は食堂2Fの日本語コーナー、英語コーナー、中国語コーナーに参加してよかった。それから、国際機構のハロウィン、クリスマスパーティーでたくさん友達を作った。あとは旅行、金沢、大阪、京都に行った。今学期はどこも行けなかった。でも、近くの民俗民芸村へ行った。</li> <li>・コロナの前は楽しかった。国際機構でいろいろな知り合いもできた。コロナの前までは文化の交流もいろいろあった。ぼくは大学の環境がないと勉強できない。自分の部屋だと勉強できない。国にいる頃から。教室や図書館にいと勉強できるけど、部屋にいと集中できないから、勉強しにくかった。コロナになって図書館に5回ぐらい行ったけど、コロナのことが心配で図書館にも行きにくかった。</li> <li>・先学期はとても充実していたと思う。今学期は暇になった。すべての授業がオンラインで、ほかの自由な時間が増えたけど、旅行には行けず、会館にずっといた。富山の立山に行ったこともないし、ちょっと残念だと思う。</li> <li>・私にとって勉強することがちょっと多すぎて、このコロナの時代のせいで毎日毎日閉じこもっていたが、あまり問題なかった。家にいても時間が足りなかったので、学校へ行っていたらもっと足りなかったと思うので、この状況でなかったら春の半年は無理だったかもしれない。全体的によく勉強してよかったと思う。授業のほかに修了論文も書かなければならなくて、ちょっと空いた時間も論文を書いていた。</li> <li>・少し寂しかった。大学では留学生向けの交流会とか今年はコロナですけど、運が悪くて、前の学期も台風で大学祭も中止で、何のイベントもなくて寂しかった。ほかの大学では大学祭があったのに富山大学にはなくて寂しかった。コロナでチューターとの交流会もなくて残念だった。</li> </ul>
--	---

まず、コースの開講科目数については大半の学生が十分だったという回答だったが、上級クラス「作文C」を春期にも開講してほしいという声が聞かれた。

次に、コースのレベルについては全体的にはちょうどよかったという回答が多かったが、難しかったという声も聞かれた。特に上級クラス「漢字C」について難しかったというコメントが複数の学生から寄せられた。従来は秋期に中級クラス「漢字B」で学んだ学生が春期に上級クラス「漢字C」を受講というケースが多かったが、今回は秋期に上級クラス「漢字C」で学んだ学生の多くが継続して春期も「漢字C」の受講を希望したため、教科書を変更して難度を高くしたことが影響したと思われる。

科目選択の際に重視した点として多かったのは、苦手なことや母国で勉強していないこと（6人）、

単位互換のため（5人）、日本語能力試験の勉強のため（4人）だった。

自身の日本語能力については大半の学生が伸びたと答え、これまでは話す、聞く力の伸びを挙げる学生が多かったが、春期はコロナ禍で自宅からのオンライン授業が中心となったことから、話す、聞く力よりも作文や漢字の力の伸びを挙げる学生が多かった。

最後に、富山での留学生活については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で春期は寂しかった、つまらなかった、日本人学生と話す機会が少なく残念だった、自宅では勉強しづらかったといった不満も多く寄せられたが、1年を通して見れば楽しかった、よかったという声も多く聞かれた。また、これまでは困った点として富山の交通の不便さや天気が悪い日の国際交流会館からの通学の大変さを挙げる学生が多かったが、第16期は冬に雪がほとんど降らず春からは遠隔授業となったことにより交通の不便さについての言及はなく、逆に富山の自然の豊かさや国際交流会館の部屋からの景色の良さなどを高く評価する声が複数聞かれた。

## 8 おわりに

第16期は、新型コロナ感染拡大の影響で、学生も教員も十分な準備がないまま、遠隔授業への対応を迫られたが、テレビ会議システム Zoom と学習管理システム Moodle を用い、同期型のオンライン授業を15週実施し、試験やレポートで成績評価を行うことができた。オンライン授業には学生も教員も不慣れで多くの困難があったが、互いに学ぶことも多かったと感じる。コロナ禍において今後もしばらく遠隔授業と対面授業を組み合わせながらコースを提供していかなければならないだろう。よりよいコースを提供するためにいかに対応していけばよいか、オンライン授業の充実を図りながら探っていきたい。